

CASBEE[®]新潟 | 評価結果 |



- 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1. 建物概要			
建物名称 建設地 用途地域 建物用途 竣工年 敷地面積 建築面積 延床面積 階数 構造 評価の段階 評価の実施日	(仮称)アルファスマート女池上山 新築工事 新潟県新潟市中央区 第一種住居地域、法22条区域 集合住宅 2024年12月 竣工 2,204.12 m ² 1,119.97 m ² 3,554.42 m ² 地上4F RC造 実施設計段階評価 2023年6月1日		
2. CASBEE新潟の評価結果			
		B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{43.1}{41.8} = 1.0$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★			
3. 新潟市の重点項目の評価			
1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全 に使い続けるために	平均スコア 3.2		バリアフリー計画 Q2.1.1.3 3.0 維持管理 Q2.1.3 3.5 設備の更新性 Q2.3.3 3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産 を守るために	平均スコア 2.9		耐震・免震・制震・制振 Q2.2.1 3.0 信頼性 Q2.2.4 2.8
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのた めに	平均スコア 3.0		雨水排水負荷低減 LR3.2.3.1 3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	平均スコア 3.0		建物外皮の熱負荷抑制 LR1.1 4.0 自然エネルギー利用 LR1.2 2.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づく りのために	平均スコア 3.3		節水 LR2.1.1 3.0 躯体材料以外でのリサイクル材の使用 LR2.2.4 3.0 部材の再利用可能性向上への取組み LR2.2.6 4.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代 に引き継ぐために	平均スコア 2.0		生物環境の保全と創出 Q3.1 1.0 敷地内温熱環境の向上 Q3.3.2 3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の個性や魅力を活か したまちづくりのために	平均スコア 2.0		まちなみ・景観への配慮 Q3.2 2.0 地域性への配慮、快適性の向上 Q3.3.1 2.0
4. 新潟市の重点項目の配慮事項			
1.内装設計、外装設計において維持管理に配慮した設計を行い、建築物の長寿命化に配慮した。 4.住宅性能表示制度5-1断熱等性能等級4相当を確保し、建物の熱負荷抑制に配慮した。 5.躯体と内装材の分別を容易にし、資源循環に配慮した。			

CASBEE[®]新潟

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)アルファスマート女池上山 新築工事	階数	地上4F
建設地	新潟県新潟市中央区	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、法22条区域	平均居住人員	117 人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年12月 竣工	評価の実施日	2023年6月1日
敷地面積	2,204 m ²	作成者	株式会社 クレイズプラン
建築面積	1,120 m ²	確認日	2023年6月1日
延床面積	3,554 m ²	確認者	株式会社 クレイズプラン

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	83%
③上記+②以外の	83%
④上記+	83%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

音環境	3.0
温熱環境	3.5
光・視環境	3.1
空気質環境	3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.7

機能性	2.5
耐用性	3.0
対応性	2.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.8

生物環境	1.0
まちなみ	2.0
地域性	2.5

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

建物外皮の	4.0
自然エネ	2.0
設備システ	4.0
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

水資源	3.0
非再生材料の	3.1
汚染物質	3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

地球温暖化	3.6
地域環境	2.9
周辺環境	3.1

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
高い外皮性能を計画し、設備の高効率化を図ることで省エネルギーで快適な室内環境を整えられるよう努めた。		特になし
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
外皮性能として、住居部分日本住宅性能表示5-1断熱等性能等級等級4を満たす計画とし省エネルギーで快適な室内環境を整えられるよう努めた。	空調・給排水配管の材質及び接合方法に配慮し、長寿命化に努めた。	建築設備に伴う排熱の位置等に配慮し、敷地内歩行者空間等の暑熱環境を緩和した。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
適切な断熱材を施し外皮の熱負荷抑制に努めた。	LGS工法により躯体と仕上げ材の分別が容易になっており、部材の再利用可能性向上に努めた。	屋外照明または屋内照明のうち外に漏れる光の対策に努めた。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される